

丹後織物

No.
878

2020.11.15

次代へ、新たな挑戦。
2020 Tango-Chirimen 300 year anniversary
2020 丹後ちりめん創業300年

TANGOORIMONO

発行所 丹後織物工業組合 京都府京丹後市大宮町河辺3188 TEL 0772-68-5211 FAX 0772-68-5300 <https://tanko.or.jp>

丹後ちりめん創業300年 SILK WEEKS IN TANGO TANGO TEXTILE EXHIBITION 開催



結果、経済産業大臣賞に1ぼかしサヤ(羽賀織物・与謝野町)が選出されるなど13作

初日の10月20日には第71回丹後織物求評会審査会が実施され、組合員事業所35社より出品された186点の作品について、野瀬兼治郎氏(京都織物卸商業組合理事)を審査委員長に総勢12名の審査員により、市場性・織り技術などを基準に審査が行

「丹後ちりめん創業300年 SILK WEEKS IN TANGO TEXTILE EXHIBITION」を、丹後ちりめん創業300年事業実行委員会と当組合主催にて、組合加工場敷地内の旧和装棟を使用した特設会場において開催しました。丹後産地での開催は約20年ぶりで、新型コロナウイルス感染症の影響により各地のイベントが中止されるなか、丹後ちりめん創業300年を記念する一大イベントとして開催しました。

去る10月20日(火)～11月1日(日)、

「300年特別賞」については、来場者による投票では「振袖瑞流」(株式会社ワタマサ)、オンラインによる投票では「市松グラデーション」(江原産業株式会社・与謝野町)がそれぞれ選ばれました。



展示会場ではコロナ禍に対応した新たな取り組みとして、21・22日にはオンライン商談会(9P参照)を実施し、9社が積極的に商談を行うとともに、組合員41業者から出品された274点(求評会出品作品を

された17点の作品について会期中の来場者とオンラインによる投票を実施するとともに、創業300年を記念した特別賞を創設し、出品された186点について来場者とオンラインによる投票を受け付けた結果、「男のきもの」部門の最高賞である「伊達男(ダンディズム)・きもの賞一席」に「御召アジロ」(株式会社ワタマサ・与謝野町)、



品が入賞しました。さら

「第71回丹後織物求評会・展示商談会」を開催するとともに、

21日には京都府議会議員の中島武文議員、森口亨議員をはじめ多数のご来賓出席のもとオープニングセレモニーを行い、12日間に及ぶ展示一般公開がスタートしました。会期の冒頭には、当組合の今井英之理事長から「丹後産地の将来像について」の発表が行われ、創業300年を契機に次なる100年に向けての決意表明がなされました。(4P参照)

続いて、丹後ちりめん創業300年実行委員会の総合プロデューサーの玉田泉さんをコーディネーターに、同プロデューサーの佐藤俊博氏、当会場のデザイナーレクシオンを行った広谷純弘氏をはじめ地元織物事業者、さらに国内外で活躍されているデザイナー、クリエイターの方々がリモート出演したパネルディスカッション(9P参照)が行われ、その模様はYouTubeで生配信されました。



む)の作品、丹後ちりめん創業300年事業で取り組まれてきた成果発表や絹友会PRブース、西陣織工業組合のご協力のもと丹後産地で製織された先染織物を中心に、今年1月に開催された西陣織大会の受賞作品等を示しました。また別棟では、大京都芸術祭コラボレーション展示や丹後ちりめんポスターきもの、TANGOCREATION NPLA FORM事業で製作された作品が展示されるなど、まさに創業300年を記念する一大イベントとなりました。

会期中は業界関係者のみならず、組合員や地元住民の方々が多く来場され、新型コロナウイルスの影響が心配されるなか、延べ12日間で約1,000名の来場者があり、盛会のうちに終了しました。

なお、表彰式は12月14日開催の総代会の席上にて執り行う予定です。

入 賞 作 品

経 済 産 業 大 臣 賞	第 1 部	ほかしサヤ	羽賀織物
中 小 企 業 庁 長 官 賞	第 2 部	丹後織 御召 単衣 七宝市松	(株)ワタマサ
経 済 産 業 省 製 造 産 業 局 長 賞	第 1 部	紋意匠 1 3 m オパール縫取	吉村機業(株)
〃	第 1 部	意匠と 6 越ウズラ①	(株)一色テキスタイル
農 林 水 産 省 生 産 局 長 賞	第 2 部	薔薇	江原産業(株)
近 畿 経 済 産 業 局 長 賞	第 1 部	紹ちりめん	安田織物(株)
京 都 府 知 事 賞	第 1 部	木賊ちぢみ 角通し丸に菱	田勇機業(株)
〃	第 1 部	縫取半衿レース	(株)糸利
全 日 本 き も の 振 興 会 会 長 賞	第 1 部	潮騒鼠	織元金重
京 都 織 物 卸 商 業 組 合 理 事 長 賞	第 1 部	ボカシ市松	(有)丸栄織物工場
日 本 絹 人 織 織 物 工 業 組 合 連 合 会 理 事 長 賞	第 2 部	TAMIYA RADEN × ARLNATA COLLABORATION OBI	民谷螺鈿(株)
日 本 絹 人 織 織 物 工 業 会 会 長 賞	第 1 部	童話シリーズ『白雪姫』	(株)吉村商店
織 研 新 聞 社 賞	第 2 部	紋紗合せ 振袖	松田織物(有)
【 特 別 審 査 】			
3 0 0 年 特 別 賞	第 1 部	振袖 瑞流	(株)ワタマサ
3 0 0 年 特 別 賞 (オ ン ラ イ ン)	第 2 部	市松グラデーション	江原産業(株)
伊 達 男 (ダ ン デ ィ ズ ム) ・ き も の 賞 一 席	第 3 部	御召 アジロ	(株)ワタマサ
伊 達 男 (ダ ン デ ィ ズ ム) ・ き も の 賞 二 席	第 3 部	ダイヤ菱	江原産業(株)

※第1部…後染織物 第2部…先染織物 第3部…男のきもの

各部門審査講評

第1部（和装着尺）

〔全体所見〕

- 300周年ということで、創意工夫されていました。
- 丹後の得意分野での新作意欲を感じました。
- 紋意匠は、総じて大柄になっているのでしょうか。後加工で京友禅を施す折には、やはり小柄の方が流通上ではニーズがあると思います。
- 好味が多様化するなかで、狙いを絞ることが難しい状況ではありますが、感覚的に消費者の方が引き付けられるような商品を是非とも考えていただきたいと思います。
- 今回は無地系統の作品が少なく寂しく思いましたが、美しく染まっているものが多く、創作意欲の湧く作品が多くありました。
- 紋系統の文様が新しく感じるものは数点ありましたが、多くは従来の感じでした。1点、若者とコラボした作品が注目を集めていました。今後の取り組みとして大いに期待できます。
- もう少し無地系統の生地があれば良かったと思います。機屋が色々考えてものづくりをされていることが良く感じることができました。最近は平均気温が高いので、サラッとしている単衣生地があればと思います。
- 柄の見え方の変化、色の出方の変化等、とても工夫されている作品が多く面白い。また、撚糸や組織での風合いの出し方、新しいデザイナーとのコラボ作品等、新しいものづくりへの意欲を感じます。もっと出品点数が増えることを期待しています。

〔産地へのアドバイス〕

- 素材があり、加工がある。加工は素材を選びます。お互いに産地の情報交換をしながら、不透明な時代を乗り切りたいと思います。素材あつての加工、京友禅であります。
- 小紋、着尺、付下、訪問着のアイテム毎に工夫されていることは、良く理解できますが、もう一工夫されると目新しい素材ができるかも分かりません。
- 大変なことではありますが、産地が生き残るためにより柔軟な考え方をやっていただき、我々京友禅に携わる業界により良い素材をお願いします。
- 学生や若い女性、実際にお召しになる方々の声を取り入れて、新しい文様作りに期待したいです。
- 流通から販売のラインを固定し、ネットやホームページ等の強化をしていけたら、全国から注目されると思います。他分野の産業とのコラボレーションも面白いと思います。
- 若い人の育成も問屋、小売店も含めて一つで考えていかなければいけないと思います。
- 他産地、他業種、デザイナーなど、新しい技術や発想とのコラボ等を増やしていただき、新しい丹後ちりめんを見たいです。

〔その他〕

- 種々の方面へ投げ掛けをされていることは、大変素晴らしいと思います。是非とも継続してやっていってください。
- インスタグラム、SNSなどで、どんどん丹後織物の魅力を

世界に発信してください。海外の方々はもちろん、日本人も敏感に反応します。

- 京都発で、全国でPRするべきだと思います。

第1部（和装小物）

〔全体所見〕

- 丹後の伝統的な組織、柄が多いように思います。丹後織の継承は大切に思います。（継続は力なり）
- 全体として、小物も例年以上の作品が多かったように感じました。

〔産地へのアドバイス〕

- 織り手が高齢になっており、若い人が必要です。
- 振袖用の生地があっても良いのではと思います。
- 生産にあたっては、前売りの商品担当者と交流して、より感度の高い織りと色を表現できるようにされることを期待しています。

第2部（先染織物）

〔全体所見〕

- 全体としてはよくできていると思いますが、厳しく言わせていただければ新しさが今少しほしかったと思います。呉服業界は厳しい状況ではありますが、産地、前売り、お互いに頑張る業界発展に努めていきましょう。
- すべてにおいて、見事な出来栄でした。そのなかでも洗いが可能、デザインを工夫したもの、イメージを凝らしたもの、エコを凝らしたもの等、現代的な発想に飛んだ素晴らしい作品が数多くありました。次世代を担うクリエイターが、今後とも排出され続けるものと感じ入った次第です。
- カジュアルに着られそうなポップなデザインが多く感じられました。一釜でも精密にジャカード表現がされていて、技術が高く感じました。経糸と緯糸で異なる色素を使い、これにジャカードを組み合わせることでシャンブレイが表現され、生地に奥行きが感じられました。耳が地より密度が濃く、引きつっている反物があり、残念でした。糸密度、または織物組織を緩くする工夫が必要だと思います。

〔産地へのアドバイス〕

- 今後とも、私ども前売りと協力して頑張っていけたらと思います。
- 今後とも自由な発想を期待しています。
- 創業300年はゴールではなく、止まることなく様々なジャンルに挑戦できる産地であってほしいと思います。

〔その他〕

- 会場の感じがすごく良かったので、これからも頑張ってください。
- 素晴らしい企画、運営に感謝します。
- 求評会が丹後で開催されて嬉しく思います。せっかく大勢の方が丹後に来られる機会なので、和装以外にも取り組んでいる雰囲気をもっと展示してほしいと思います。

令和2年10月20日～11月1日にかけて開催いたしました丹後ちりめん創業300年「SILK WEEK SINTANGOTANGOTE XTILE EXHIBITION」において、展示商談会・展示一般公開初日となる10月21日(水)に丹後織物工業組合今井英之理事長が発表した「丹後産地の将来像について」の内容を掲載いたします。

丹後産地の将来像について

本日はご多忙のなか、また遠方からも丹後ちりめん創業300年「TANGOTE XTILE EXHIBITION」にお越しいただき、誠にありがとうございます。丹後織物工業組合理事長の今井英之でございます。



約20年ぶりに丹後での開催を決めたものの、新型コロナウイルスの影響で開催することすら不安ではありま

したが、関係各位、組合員の皆さまのご協力をいただき、先ほどのオンラインイベントをもちまして無事スタートすることができました。心より御礼申し上げます。

ご案内では「丹後織物産地振興プランの発表」となっておりましたが、産地の現状や近年の丹後産地の取り組み、そして丹後ちりめん創業300年を契機に、今後50年、100年と織物産地として歩みを続けていくために、いま思い描いている構想についてお話をさせていたたくとも、それを実現していくための決意を述べさせていただきます。

ここ丹後地域は、ちりめんが始まるよりも遙か昔、1300年以上も前から続く絹織物の産地です。丹後産地の礎を築いた先人たちは、「丹後紬」や「せんじ」、「丹後絹精好」などを作り出していますが、江戸時代中期、丹後で相つぎ起こった大飢饉により人々の生活は困窮を極めました。この状況を救うため立ち上がったのが、地元峯山藩の一人の男「絹屋佐平治」と加悦谷地域の3人の始祖たちです。始祖たちは、当時流行していた西陣の「ちりめん織り」の技法を奉公しながら学び、地元へ帰郷したあと、改良に改良を重ね、今

までにない丹後独自の「ちりめん」を創り上げました。これが今も織り継がれる「丹後ちりめん」の起源です。今からちょうど300年前、1720年の出来事です。

一昨年、5月に日本史家の磯田先生からお電話をいただきました。「丹後ちりめんが300年前に誕生した」ことの証拠となる「獅子崎村(しげきむら)」という古文書を発見したので寄贈したいとの電話でした。

先生いわく、獅子崎村は雪舟「天橋立図」写生の地とされており、古文書によると、田畑が荒地になって1782年には「十軒ばかりの村」になっていた。海辺で土地が悪く「作毛(収穫)」が上がらず経営継続が難しいので、「五十年以前より縮緬機(ちりめんばた)を農業余力に企て、この利潤で世渡りを送る」と記されているということ、丹後ちりめんの開始時期が1720年代前半であることを直接的に示す農村の一次資料です。現在は京都府郷土資料館に預かっていただいています。

幾度かの艱難辛苦を乗り越えて、西陣、室町の皆様と先人のおかげにより伝承された丹後の織物業は、この地域の一大産業として発展するとともに日本有数の絹織物産地として発展を続けてきました。

そして、今から30年少し前の昭

和60年代当時の白生地生産目標は315万2千反だったと記憶していますが、地元の担任理事をしていた私の父の話では「最後に踏ん張る」という意味合い(語呂合わせ)で生産目標を315万2千反としたそうです。しかしながら現在は10分の1以下の30万反を割り込み、組合員数も680名程度にまで減少しています。

着物離れなど需要減退の影響を長年にわたり受け続けてきたこと、川下からの逆算形式で価格決定がなされてきたこと、そして低い工賃で仕事を受注してきたことから将来への生活不安もあり、後を継がせたくない、後継者がいないことよって織物従事者の高齢化も進み、組合員の平均年齢は70歳前後となっています。さらには織機など生産設備の老朽化の問題も顕在化してきました。

一方、組合の加工場においても高い加工技術を持つてはいるものの、業界環境の悪化から建物や設備の整備が思うようにできない状況が続いてきました。

ただ、こうした状況下にあっても、各事業者において「和装」から「洋装」へ転換する事業者や、下請け的な立場からの脱却を図るため、糸から手当てし、自社オリジナルデザインによる帯や洋装地を手掛ける事業

者も出てきています。最近では、親事業者の世代交代も随分と進み、若い世代がグローバルな市場を求めて海外の展示会へ出展し、また、そうした経験などをもとに広幅織機を導入し、これまでに培った技術力で、洋装ファッション、インテリア分野へ販路を求める動きも出てきています。

また、組合の加工場においては、近年2つの加工場で運営してきましたが、将来へ向けて人・物などの経営資源の効率化を図り、人材の確保、育成によるさらなる加工技術の向上や、新たな付加価値加工の導入を進め、国内随一の絹織物の加工施設となっていくことを目指すため、本年3月末をもって1工場へと統合いたしました。

こうして丹後ちりめん創業300年という記念すべき年を迎えるにあたり、これを契機として持続可能な夢のある産地へ変革させていくべきと考え、どのような将来を目指すべきか、そのためにはどのような取り組みをしていくべきか、数年前より検討を進めて参りました。これまでと同じことをしていたのでは、産地の未来はありません。この状況からいち早く脱却し、多くの人から魅力ある産業であると認識していただき、次世代へまたその次の世代へと、

丹後の素晴らしい織物業を継承させていくための道しるべを作ることが、今の私たち世代の使命であると思っています。

そのためには、丹後産地として今後、大きく2つのことを実現していくことが必要であると考えています。

まず一つは、精練加工などを行っています加工場の建物、設備の老朽化への対応、そして生産性の向上と機能強化のための整備の実現です。

かつて、日本各地の和装産地には絹織物を精練加工する加工場が存在していましたが、産地に加工場があることで、利便性がよく生産した製品の加工後の風合いなどがすぐに確認できることなどから、事業者は安心してものづくりに対応することができました。しかし、和装需要の減退とともに各地にあった精練工場は縮小、廃業を余儀なくされ、現在、小幅の絹織物を加工できる主な施設は国内に4工場だけとなっています。

当組合も例外ではなく、最盛期には4つの工場が稼働していました。が、この敷地内で稼働する1工場のみとなりました。

産地の拡大期に建てられたこの加工場は昭和41年の竣工で、すでに50年以上を経過しています。最盛期には1日あたり白生地1万反もの白生地を加工しておりましたが、現在は

1日あたり約1千反ですので、決して効率がよい工場とは言えません。

いろいろな課題があるなかで、すでに出来ることから始めようということでも動き出しているプロジェクトもあります。

作業効率、生産性の向上、職員の安全対策などについては「トヨタ生産方式」を取り入れ、外部専門家の指導の下、工場内の総点検をしている最中であり、5Sは勿論のこと、作業の見える化など、当たり前のことが出来ていなかったりなど、まだ始まったばかりですが多くの指摘をいただいています。また、SDGsの取り組みの一環として、ボイラーの燃料を重油から天然ガスに切り替えることにしており、組合創立100周年を迎える来年10月頃の稼働を目標に進めたいと考えています。

いずれもコストダウンにも繋がるものと確信しています。さらには、加工場には「洗える絹」を可能にする「ハイパーガード加工」をはじめとする、多くの特殊加工技術があります。こうした技術を活かして他産地や海外からの加工も受け入れるために、ホームページの刷新にも取り組みました。

こうした将来に向けた投資と職員待遇改善のために、非常に厳しい業界環境ではありましたが、利用組合員の皆さまのご理解のもと、昨年

12月に加工料の値上げを実施させていただきました。

このように一つ一つではありますが、多くの課題に対して取り組み始めた矢先に、新型コロナウイルスの感染が世界中で確認され、経済・社会活動が短期間で大きく変革したことは皆さんご承知のとおりです。大きく変わっていく世の中、直近に迫った厳しい経済環境を乗り切る術も身に付けていく必要性に駆られているだけでなく、中長期的にも、これまで日本文化の象徴である「和装」、「きもの」文化を支えてきた日本最大の絹織物産地として、この加工場を持つハード、ソフト両面の高い技術や資産をしっかりと守り、発展させていくことが、大きな使命と考えております。

そして2つ目は、丹後が国内、あるいは世界から注目される絹織物産地になるためのさまざまな機能を持つことです。

丹後産地が持つ織り・加工の技術は勿論のこと、丹後の文化、自然、食などの背景を一体的にブランディングすることで、「テキスタイルクリエイション産地」として国内外のデザイナー、クリエーター、アーティスト、バイヤーに興味を持ってもらえる産地になると思っています。織物業のみならず地域全体の活性化を図るためにも、生産、技術・デザイン

ン開発、また販路開拓といった「ものづくり」から、産業観光の推進や観光情報の発信、WEB、SNSによる「情報発信」、そして、消費者への直接販売も行いながら商品開発へフィードバックできる機能を強化して、事業者のB to Bを基本とした新たな収入を創出する必要があると考えています。

先ほど申しましたように、和装分野を中心に発展を遂げてきた丹後産地ですが、その技術力をもってファッション、インテリアなど新たな分野へ、そしてグローバルな市場を目指す事業者が誕生してきています。また、「丹後ちりめん」の枠にとられない新しい織物が産地内で生まれていて、この会場内をご覧いただきましたらお分かりいただけるように、多種多様な多様性を持った産地に生まれ変わっています。これらを基に各事業者によって、国内外の展示会などへ出展し商談を重ねてきた結果、海外のハイブランドからも丹後の素材に高い評価をいただいていますし、国内外のバイヤー、デザイナーなどが産地機業のもとを訪れています。また、昨年からは、海外のデザイナーが丹後に一定期間滞在し、事業者とともにプロダクト開発に取り組みというクリエイションレジデンス事業も行っています。

こうした流れを後押しし、国内における丹後産地の認知度をさらに高めるとともに、世界へ向けて丹後のテキスタイルを発信するため、2年前には新たなブランド「TANGOPEN」を立ち上げました。世界へ向けて未来を切り開く、世界に開かれた産地であることなどを意味するブランドロゴは、世界的なグラフィックデザイナーである北川一成様に制作いただきました。東京で行ったブランド発表会には、ユニテッドアローズ名誉会長の重松理様にもお越しいただきました。こうしたつながりは、ユニテッドアローズ様と丹後の事業者とのコラボ商品の開発、販売へと発展いたしました。

これらは、丹後ちりめん創業300年事業実行委員会の総合プロデューサーを務めていただいている玉田泉さん、佐藤としひろさんお二人の人脈により実現したことです。重松さん以外にも、ファッションデザイナー、アーティストの方々など、これまでに多くの方々を丹後産地へ招聘していただき、我々の人脈では到底お会いすることができない方々とコミュニケーションできる環境を作り出していただいています。今回、こうした活動が京都のブランド力向上に貢献したと評価を受け、今年9月に「京都創造者賞」を受

賞いただきました。これもひとえに、京都府さんや地元2市2町の首長様をはじめ行政の皆様からのさまざまなご支援をいただいていたおかげであり、心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

今回の新型コロナウイルスの影響で「新しい生活様式」のもと、従来、直接取引先に向いて、また展示会などで対面による商談が行われていたものが、海外の展示会も含め、「オンライン商談会」という「新たな商談形式」が生まれています。オンラインを活用して産地に呼び込むだけでなく、産地しながら日本全国と、さらには世界と繋がるができるようになりました。今回の求評会の中でも、トライアル的にオンライン商談会にも挑戦することになっています。

こうした将来像に向かうために、本日のこの発表をもって、組合内や産地内での議論を一気に加速させ、組合組織の改革も含めた産地ビジョンへと完成させます。

また、来期2021年度には京都府や地元市町、関係機関の皆様方と一緒に、産地の将来について議論ができるように前向きな取り組みも始めたいと思います。

300年前、苦勞に苦勞を重ね「丹後ちりめん」を作り出していただいた

始祖の方々のお思いを、またその後も歴史的に幾度となく苦難を乗り越えてきた先人の思いを、今後さらに100年、200年と繋げるため、一部の意見・考えでなく、産地全体で徹底した議論を重ね、知恵を出し合っていく必要があります。

申し上げた2点につきましては、今後の産地の運命を左右する大きな決断と言っても過言ではありません。成し遂げることは容易ではありませんが、「織物業」を魅力ある産業に押し上げ、次の世代、また次の世代へと継承する「第1歩」を丹後ちりめん創業300年を迎える今年、産地全体で踏み出していきたいと思っています。

このいただいたチャンス为契机とし、必ずチャンスにつなげていくことをお約束し、私からの発表を終えさせていただきます。

ご清聴ありがとうございます。

令和2年10月21日

丹後織物工業組合

理事長 今井 英之

パネルディスカッション

SILK WEEKS IN TANGO TANGO TEXTILE EXHIBITION の開幕にあたり、丹後ちりめん創業300年事業にてこれまで関わりを深めてきた方々にご登壇いただき、「丹後織物産地の未来へ～丹後から世界へ、そして世界から丹後へ～」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

丹後ちりめん創業300年事業実行委員会の総合プロデューサーを務める玉田泉氏・佐藤俊博氏、今回のTANGO TEXTILE EXHIBITIONの会場設計をディレクションした株式会社アーキヴィジョン 広谷スタジオ 広谷純弘氏、丹後の織物事業者として田勇機業株式会社 田茂井勇人氏、クスカ株式会社 楠泰彦氏に登壇いただきました。また、リアルタイムで株式会社 I W Y ファッションデザイナー 岩谷俊和氏、ファッションクリエイティブディレクター 軍地彩弓氏、ファッションコーディネーター 大塚博美氏に、zoom を利用してリモートでの参加をいただきました。

各者より丹後ちりめんの創業300年への祝意表明と併せてこれからの丹後産地の姿について語っていただいたり、10月6日～19日に渋谷PARCOで行われた丹後POPUP イベントで初披露となった、ファッションデザイナー岩谷氏による「きもの巾（小巾）生地でのウェディングドレス」の制作プロモーション映像をご来場いただいた方々に見ていただくなど、丹後ちりめん創業300年を飾る華々しいパネルディスカッションとなりました。なお、この模様はYouTube で生配信しており、現在もアーカイブとして視聴可能ですので是非ともご覧ください。



*岩谷氏 きもの巾(小巾) ウェディングドレス



*渋谷 PARCO での披露の様子



アーカイブ@ YouTube

オンライン商談会

SILK WEEKS IN TANGO TANGO TEXTILE EXHIBITION の会場では10月21日、22日に「TANGO TEXTILE EXHIBITION in Remo」と称し、オンライン商談サービス Remo を活用した展示商談会を行いました。

新型コロナウイルスの蔓延により今後、リアルでの商談の機会が減ることを見越し、丹後でもオンラインを活用した商談や展示を行えるよう試行的に実施しました。



(商談の様子)



当組合では初のオンラインでの取り組みだったため慣れない部分もあり、サービスの欠点やリアルでの商談との両立など様々な課題もありましたが、今後の活用、発展に可能性を感じられる結果となりました。



丹後ちりめん創業300年 YouTube 特別企画

丹後ちりめん創業300年事業実行委員会では、「Sheila Cliffe × Tango Artisan」と題し、丹後ちりめん創業300年アンバサダーのシーラ・クリフ氏と丹後の織物職人のトークセッションをYouTube上で公開しています。

丹後ちりめんに関わる丹後の職人と、イギリス出身のきもの研究家としてきもの魅力発信など活躍を魅せるシーラ・クリフ氏がYouTubeで今後の丹後織物、そして、きもの業界について語る特別企画です。



*再生リストは11月13日現在



新型コロナウイルス感染拡大の影響により対面でのトークが行えないなか、zoomを活用して行っています。遠隔ならではのトークセッションを是非ご覧ください！

丹後ちりめん創業300年人材確保事業「丹後ちりめん未来会議」を開催しました。



去る11月1日(日)に丹後織物工業組合特設会場において「丹後ちりめん未来会議」を開催しました。

本事業は丹後ちりめんの素材・技術を活かした新たな事業を立ち上げようと試みる人材の発掘を行うことを目的に、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインにてイベントを開催しました。

当日は、株式会社ローカルフラッグの濱田祐太代表取締役をファシリテーターに2回のトークセッションとワークショップを開催し、10～60歳代の24名に参加していただきました。

トークセッションは、柴田織物 柴田祐史代表、関祥汰氏とCOS KYOTO 株式会社 北林功代表取締役による「丹後ちりめんの可能性を掘り下げる」、アーティスト 高橋臨太郎氏と京都府織物・機械金属振興センター 徳本幸紘

主任研究員による「地域・アートと丹後ちりめん」という内容で実施しました。

その後、グループワークとして「あなた×丹後ちりめんのアイデアソン」をテーマに、参加者を3グループにわけ丹後ちりめんに関連するアイデアを話し合い、各グループから発表が行われました。

丹後ちりめん創業300年 PR 事業交付金の交付決定

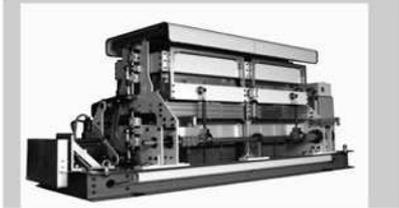
丹後ちりめん創業300年事業実行委員会では、丹後ちりめん創業300年を迎えた本年、より一層の情報発信、機運醸成を図るため、丹後地域内の住民団体が丹後ちりめん300年PR事業と連携して行う事業を支援するための交付金対象事業を募集し、住民団体から交付申請を受け、本年10月28日付けで次のとおり交付決定を行いました。

- ▶団体名：ヒカリ美術館（京丹後市）
- ▶事業名：丹後ちりめんの茶室のしつらえ展「ソーシャルディスタンス」

広告

技術集団 CSS 自社開発製品の一覧

単動式電子ジャカード



サーボモータ付電子ジャカード

- 特徴**
- 棒刀・ふみせに対応
 - 口数は自由設計
 - メンテナンスは
タテ針とカセット交換

- 最先端型業種に認定
- 特許番号 (5326149号)

ダイレクトジャカード



- 商標登録 (5416906号)
- 特許番号 (4747308号)

- タイプ**
- 西陣・桐生
エンドレス

コントローラ (佐和・カヤバ対応)



- FD・USB・LAN 対応
- CGS⇔CGS II 双方変換



- USBメモリ 対応
- 検索絞込可能

紋紙データ管理「みこし」

-
- FD⇔USB 双方向変換
 - 紋紙データ管理
 - シーケンス

USBドライブ

-
- 交換はFDDドライブと同じ, CGS II 対応

開発・製造・販売 CSS株式会社

(本社) 〒482-0003 愛知県岩倉市曾野町709
TEL (0587) 37-9131 FAX (0587) 37-9061

(岩倉工場) 〒482-0002 愛知県岩倉市大市場町郷廻312
URL: <http://www.css-corp.jp/> E-mail: ao@css-corp.jp

SEJ単動電子ジャカード windowsコントローラ搭載



Made in JAPAN 電子ジャカードとして製織現場のご要望にお応えいたします。要求仕様に合わせて2000口から8000口までの針数に対応、これからの高品位製織を支えます
高機能Windows タッチパネルコントローラを標準搭載しています
標準縦針負荷1000g/1本強化針仕様3000g/1本



SEJ-3072

SEJ単動電子ジャカードの主な製品仕様・タイプ

- ロッド駆動式電子ジャカード SEJ-1344, SEJROD16×84 両口平行開口
- チェーン、シャフト駆動電子ジャカード SEJ-1344, SEJ-2688, SEJ-4032, SEJ-8064 両口傾斜・平行開口
- その他 織ネーム織機BSL用電子ジャカード 経編み機用電子ジャカード他

ダイレクト・ジャカード CGS2 Miniコントローラ搭載



現在も佐和式ダイレクトジャカードを製造する国内唯一のメーカーです。西陣ピッチ・桐生ピッチ・エンドレスピッチの各社メカジャカードに対応します。CGS2フォーマットMiniコントローラを標準搭載
高機能Windowsコントローラ対応今までに培われた豊富な経験と信頼性で西陣織、和装、タオル、インテリア等の生産現場を支えます



高速「レスタイ」1344口300rpmMAX

ダイレクト・ジャカードの主な製品仕様・タイプ

- 西陣ピッチ 縦カセット400口、600口、900口、1200口 桐生ピッチ一体型1000口
- エンドレスピッチ 896口、1344口、1792口、村田MZ、村田MO、山田V250、ストープリCR500、マイヤーHJ&SJ等

佐和染織工芸の伝統と技術の継承

これまでに国内1万台以上の実績国内ダイレクトジャカードのスタンダードです

エイチ・ケイ・サムテックは紋織りジャカード装置を通じて製織現場の信頼性を支え続けてまいります

製品のお問い合わせ先

丹後地区代理店

- | | | |
|-------------|-----------------|------------------|
| 梅田機料品店 | 京丹後市網野町浜詰678-29 | TEL 0772-74-0616 |
| 小牧機料品店 | 与謝郡与謝野町算所463 | TEL 0772-43-1121 |
| 丹後ダイレクトサービス | 与謝郡与謝野町幾地1652 | TEL 0772-42-4413 |
| ダイレクト・今井 | 与謝郡与謝野町石川2324 | TEL 0772-42-4445 |
| フナト機工有限会社 | 京丹後市網野町浜詰678-33 | TEL 0772-74-0347 |

製造元

有限会社エイチ・ケイ・サムテック 岡山県美作市北山1001 TEL 0868-73-6166

きもの奥さま よいださばえ



編集後記

▼12日間にも及ぶ丹後ちりめん創業300年を記念する一大イベントが終了した。久々の産地内の開催で、会場の整備や初の試みとなるオンライン商談・投票など慣れないことに色々とバタバタしたが、出展者や役員の方々に協力いただきながら無事開催することができ、感謝の念に堪えない。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るうなか、延べ1,000人を超える方々に来ていただき、丹後産地の技術力、魅力をPRすることができた。会場内に敷き詰めた松チップの香りが漂う会場の雰囲気も好評であり、今後の商談の成果に期待したいと思う。

(MU)

「シルクサミット 2020 in 丹後」開催

去る10月23日(金)・24日(土)の2日間、日本の各地域で養蚕・製糸・染織等の生産活動をしている方や博物館・資料館で地域の方と一緒に活動している方、絹工房等の地域活動をしている方々が相互に意見交換や情報・技術の交流を行う「シルクサミット」が大宮アグリセンター(京丹後市大宮町)を会場に開催され、全国から約140名の関係者が丹後を訪れました。

コロナ禍で開催が危ぶまれましたが、18年ぶりの丹後地域での開催となった今回、初日の23日には今井英之理事長による「丹後ちりめん創業300年 世界の絹織物産地を目指して」と題した基調講演が行われ、その後の研究活動報告では、与謝野町で「ひらく織」の活動を展開している「ひらく織実行委員会」の高岡徹委員長(高美機業場:与謝野町)などから活動内容や研究発表が行われました。

2日目の24日は、約40名の参加者が組合加工場や「TANGO TEXTILE EXHIBITION」の会場、丹後ちりめん歴史館を見学されました。



共販ニュース

ダストブロー
(株)タイホーコーザイ
ほこり飛ばし
逆さ吹きOK



特価510円(税込)

**ジェット
サイズ**
(静電気防止)
五洋電気(株)



静電気が多発する
季節です。トラブル
防止にどうぞ

790円(税込)